

定期上映会 戦傷病者の証言～仕事の労苦編～

身体の不自由を乗り越えて仕事に励んできた
戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1階 証言映像シアター

上映期間：2022年9月13日（火）～11月6日（日）

上映時間：10：00～17：00

親指が支えた人生

毎時 0 分
より上映

海軍機関兵として駆逐艦綾波に乗艦中の昭和18年3月、艦内の発電機の点検中に右手を巻き込まれ、親指以外の指を失う事故に遭遇。利き手の指を失ったため、その後、仕事を転々として労苦したが、戦後は木工職人として生計を立てた。自分の子供が学校で、指のない傷痍軍人である自分のことについて、教師から心ない言葉を受けた時の怒りと悲しみを語る。

蟻地獄からの脱出

毎時 10 分
より上映

18歳で海軍に志願、昭和19年10月に台湾の航空基地に海軍の整備兵として勤務中、空襲で機銃攻撃を受け右眼と両手を負傷し、右眼は失明、左指は3本半ばより切断することになった。昭和21年に復員したが、両親は既に亡くなり、兄弟も戦死した兄と結核で療養中の弟のみで帰る家がなく、親戚の家に世話になりながら生計を立てる。闇市で人夫の世話役などをするも、周囲からは「特攻崩れの三ちゃん」とのあだ名がつくほどに荒れた生活になってきたために、一念発起して土木業に励む。

小学校を出て先生に

毎時 27 分
より上映

救難船「二神」に機銃手として配属。昭和19年2月18日未明、トラック諸島夏島附近で敵の機銃掃射を受け左肘・右下大腿部を負傷し海軍病院へ搬送。止血したままの左腕は壊疽となり切断手術を受ける。昭和20年3月、島根の傷痍軍人の教員養成所に入所し、戦後は小学校の先生としてへき地教育に尽力。ついには校長へと昇格し、妻の労苦をねぎらう。

支えられた歩み

毎時 42 分
より上映

昭和20年3月、ソ満国境の警備にあたっていた際、暗夜の輸送作業中に列車事故に遭遇。両足切断の重傷を負う。満洲の陸軍病院で終戦を迎え、ソ連軍に抑留されるも重傷ゆえに解放。翌21年8月の復員後、父親の助言で修理技術を習得し、後に郷里に時計店を開業。この自らの生きる道の発見とは別に、身障者の自立更生にも心を砕き、活動にあたってはステッキを片手に奔走する。その後、ステッキを松葉杖に持ちかえたが、その歩みには今も変わりはない。

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。